

Q こどもの意欲を高める漢字テストの方法がありますか。

A

- ポイント ◎ 漢字テストは、定着をうながすとともに、
学習意欲を高める意味があります。
- ◎ こどもが慣れ親しんでいる漢字語を出題します。
- ◎ こどもがつくった問題文を出すと意欲が高まります。

◇ もくじ ◇

- ① 定着をめざす漢字テスト
- ② 5問の小テストでこどもの成功体験をつみかさねる
- ③ なじみのある漢字語か否かによって正答率が変わる
- ④ 意欲を高めるテスト問題のつくりかた、出題の形式
- ⑤ 予告と練習期間
- ⑥ 事後の再指導
- ⑦ 採点の基準と許容

I

定着をめざす漢字テスト

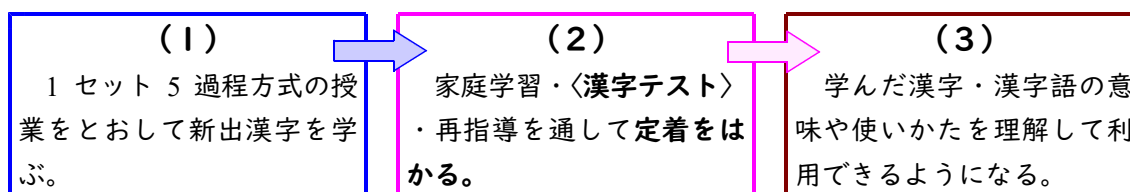
〈漢字テスト〉は、漢字学習につきものといえます。どの学校段階でも、どの教室でもおこなっているでしょう。

ただ、ひとくちに〈漢字テスト〉といっても、その目的や方法・形式は、多様です。

クラスの児童・生徒の定着状況を調べる、国語の評価・評定の材料にする、「学力テスト」対策や受験対策でおこなうなどのむきもあるかもしれません。



国字研・漢字指導法研究会では、これまでのかずかずの授業報告とそれをもとにした研究のつみかさねから、つぎのような漢字・漢字語を生きたコトバとして獲得していく一連の学習過程のなかに〈漢字テスト〉を位置づけてきています。



まず（１）１セット５過程方式の授業をとおして、新出漢字の「①読み・②意味・③字形」を理解し、関連する④ことばを集め、⑤文づくりをします。

特に、作った文はクラスで交流します。それらの活動によりその漢字の理解を深めます。

（２）学んだ漢字は、確実に定着させる必要があります。その大事な機会が家庭学習であり、〈漢字テスト〉です。結果によっては再指導もおこないます。くりかえし学ぶことが必要です。〈漢字テスト〉で定着をめざします。

このようにすることによって、（３）学んだ漢字や漢字語を、会話・討論や文章の読み取り、作文、他教科の学習などで利用できるようになります。また、利用によって意味や使いかたが一層確かになります。

以上の過程を経て、漢字・漢字語を生きたコトバとして獲得したということになります。



5問の小テストでこどもの成功体験をつみかさねる

〈漢字テスト〉には、「学習意欲高め」・「学習の動機づけ」になるというたいせつな意味があります。

OMさんのクラスのこどもたちが帰りの会で書いた一行日記です。

今日は5時間目にテストをやりました。私はすごく漢字がにがてです！ぜったい100点をとりたいです。

5時間目にかん字テストがありました。さいしょ、テストまですごくドキドキしました。テストが終わりました。ドキドキしていたのはもう100点とれるぞというじしんでした。

テストが100点だとうれしいです！

5時間目かん字テストで今回が100点85パーセントかな？なんて思いました。でも100パーセント本当ならうかりたいに決まっている。ドキドキするなー100点とれるかなー、ぜったいうかりたい。

かん字テストがありました。「深い」という漢字がふあんです。でもれん習したので100点とれると思います。

このように、漢字テスト 100 点めざして武者ぶるいするこどもたちが続出するのは、なぜでしょう。

それは OM さんが、こどもの意欲を高めるシカケをほどこしているからです。そのシカケとは、「100 点に慣れさせる。全員 100 点をめざす。そのためには、問題数を 5 問の小テストから開始する。」ということです。実践報告によると、つぎのようにとりくみました。

- (1) 1 学期分の新出漢字の**予定表**を作り、保護者とこどもに知らせる。
保護者には学級通信で伝え、協力をよびかける。
こどもには「みんなで 100 点とろう！」とよびかけ、学習の見通しをもたせる。
- (2) 小テストの**問題数**は 5 問にしぼることを原則とする。
片手におさまる数であり「これならできる！」との見込みと、めあてをもつことができる。
- (3) **出題**は、[国字研精選案](#)の A 漢字を中心にする。
「これだけの漢字しかない。できるできるの感覚」がもてるようになる。
- (4) テスト問題は、コトバとして使えるようにするため、**文の形**とする。
- (5) 「1 セット 5 過程方式」で学習した漢字 5 字分を対象にした**テスト問題**を、小テストの 1 ～ 2 週間前に配布する。
「さあ、やろう」という気持ちをもてるようにする。
5 問しかなく、しかも事前にわかっていることから、どの子も 100 点とれる可能性が大きい。

1 ～ 2 週間前に印刷・配布するテスト問題の例

3年生

漢字テスト 12 一、運動会が楽しみだ。 二、あしたの予定を書く。 三、ピアノの練習をする。 四、車が高速で走る。 五、角を曲がる。	漢字テスト 12 一、うんどうかいがたのしみだ。 二、あしたのよていをかく。 三、ピアノのれんしゅうをする。 四、くるまがこうそくではしる。 五、かどをまがる。
[おもて面]	[うら面]

(6) 5日～3日前から**家庭学習**を課し、テスト練習を開始する。

漢字ノートにテスト問題の文を書いて、提出。

まちがいがある子や、漢字が苦手な子には**個別にサポート**する。

ここで記憶の強化をめざし、「できる。できる」の気持ちをもてるようにする。

(7) スタートが大事。学年はじめには、全員 100 点になるまでテストをくりかえす。

全員が 100 点とれて、はじめてスタートラインにつけることができる。

この段階で「やればできる」の気持ちをもたせる。

そのためには個別指導で一人ひとりが新出漢字を書けるようにもっていく。

漢字が苦手な子、嫌いな子にとって、最初の成功の意味は大きい。

ここで努力の程度を体得し、2回目以降のテストへの期待感をもたせる。

(8) がんばった成果を「**がんばりカード**」に記録し、保存する。

学んだ漢字を確実に定着させるには、くりかえし学ぶことが必要です。

そのための大事な機会が家庭学習であり、〈漢字テスト〉です。

OMさんは、家庭学習と、〈漢字テスト〉につながりをもたせました。

まず、「1セット5過程方式」で学んだ新出漢字は、その日の家庭学習でその字をもとにした熟語や短文を漢字ノート1ページ分にまとめさせています。

記憶が新たなうちに、印象を深め、またしっかり学んだかどうかをたしかめる意味でも大事だからです。

しかし、一時的にストックされたとしても、使わないままだと、2週間くらいで記憶は消去されていき、一方、

2年 2学期漢字小テストがんばりカード						
1	1	2	3	4	5	お家の人のサイン
	丸	点	会	店	買	
2	1	2	3	4	5	お家の人のサイン
	弟	半	分	合	雲	
3	1	2	3	4	5	お家の人のサイン
	組	交	声	才	羽	
4	1	2	3	4	5	お家の人のサイン
	遠	門	星	矢	牛	
5	1	2	3	4	5	お家の人のサイン
	肉	当	頭	黒	何	
6	1	2	3	4	5	お家の人のサイン
	来	家	帰	昼	親	
名前						

再使用されると脳の記憶の引き出しにしまわれると OM さんは、考えました。

そこで2週間くらいしたら、小テストにおいて再度練習することが、確実な定着において必要なこととみたわけです。

結果として、5問の小テストが、こどもの成功体験をつみかさねる場になりました。

3 なじみのある漢字語か否かによって正答率が変わる

EY さんは、漢字語によって漢字テストの正答率が変わることをあきらかにしました。

3 年「反」では、「反対」は結果がよかったが、「反えい」（反映）はおもしろくなかったそうです。

また、「指」では、「指き者」（指揮者）はよかったそうですが、「指定」となるとおぼろしかったといいます。「定」も3年配当漢字です。

これは、「反対」や「指き者」は、学校生活でふれる、なじみのあるコトバですが、「反えい」や「指定」となると、なじみがうすいからのようです。

つぎは極端な例ですが、「作」、「用」はともに2年生の漢字です。だからといって、「作用」を出題できますか。

これらのことから、出題する漢字・漢字語の難易については十分考慮する必要があります。

以下は、出題する漢字・漢字語についての配慮事項です。

- (1) 教科書、漢字辞典などを参考に作問するときは、既習漢字を含んでいるからとそのままとりあげるのではなく、こどもに**なじみがあり、意味がわかりやすいコトバ**であるかどうかまで検討することが求められます。
- (2) 市販テストや教材会社ドリルやワークの中には、その学年に応じた漢字語の難易さを十分に検討して作られているとは思えないような語例がときおり

みられます。

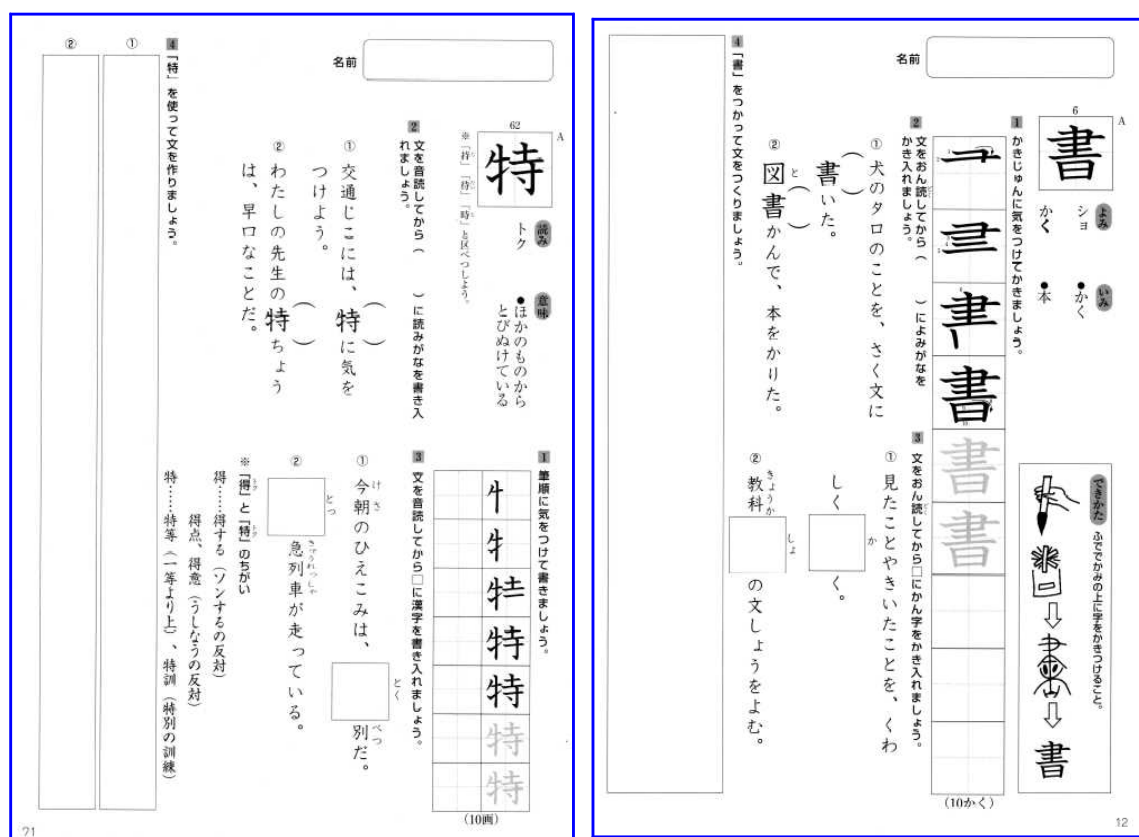
そこで、教材会社ドリルやワークをそのまま使う場合には、つぎのような配慮が必要です。

- ① テストになって、はじめて出会わせるのではなく、授業でその漢字語の意味や使いかたを十分に指導しているかが決め手となる。
- ② 事前に計画的に練習させる。

なお、テストの形式は、漢字語だけを出題するよりも、句や文のなかに漢字語を組みこむ方が、このましいことといえます。その漢字語の意味や使いかたを、文脈を通してつかみやすくなるからです。

(3)『国字研プリント』は、なじみのあることばを身近な文脈に置いています。

※ 小学校 1 年用～ 6 年用、絶版（各学年とも、新版を検討中です。）



【右】『たのしくみにつく!!漢字の力』小学校 2 年，ルック，2006 年

改訂したものを，「[かん字学しゅうサポートシート](#)」小学校 2 年用シートとしてウェブページに公開しています。

【左】『たのしくみにつく!!漢字の力』小学校 4 年，ルック，2006 年

4

テスト問題のつくりかた，出題の形式

◇1◇ 一般的な漢字テストの出題形式

一般的な漢字テストでは，漢字の読み，または書きのみを求める形式がよく使われます。

Aタイプ

「漢字の読み」を求める。

○つぎの文の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

Bタイプ

「漢字の書き」を求める。

○つぎの文の——線部のカタカナを漢字でていねいに書きなさい。

◇2◇ 国字研の実践例にみられる学習意欲を高める出題形式

Cタイプ

「ひらがなの文」を提示し，「漢字かなまじりの文」で書くことを求める。

② (P.3) で紹介したように OM さんは，小テストを文のかたちで出題しました。OM さんは，「9 才くらいまでの児童は，コトバの意味や使いかたを文脈の中で理解する」ことが多いことに着目し，「テスト問題は，コトバとして使えるように文の形で練習」することを，くりかえさせたいと言います。

〔注〕〔おもて面〕には，一部の漢字を○で囲んでいます。これは，学びたての新出漢字をしめすものです。評価・採点のときは，その漢字だけでなく，文全体の語句が正しくていねいに書かれているかをみます。

1～2週間前に印刷・配布するテスト問題の例

3年生

漢字テスト	漢字テスト
一、運動会が楽しみだ。 二、あしたの予定を書く。 三、ピアノの練習をする。 四、車が高速で走る。 五、角を曲がる。	一、うんどうかいがたのしみだ。 二、あしたのよていを書く。 三、ピアノのれんしゅうをする。 四、くるまがこうそくではしる。 五、かどをまがる。

〔おもて面〕 〔うら面〕

そして OM さんは，このような小テストの形式に慣れてきたら，こどもが考えた文を，指導者が採用してテスト問題をつくる形式をとりいれました。

Dタイプ

授業でこどもがつくった文を問題文にして出題する。

以下、Dタイプの例。

Dタイプ：例1

OMさんの報告によると、自分が書いた文がテストで出されると、その子はとても喜んだといいます。また、まわりの子も「自分でもつくれそう。」
「Aちゃんがつくったなら、100点とってやる。」と好ましい効果がみられたといいます。

〔注〕「出題者」などの児童名は、以下にしめすものも含めて、すべて仮名にしました。

★小3年「みんなのつくったかんじテスト」の例（OMさん）

みんなのつくったかんじテスト①	
出題者	なまえ
ゆう太くん	① ぼくはテストで をまちがえたから した。
ゆう子さん	② ぼくが だとあそんでいたら しい人がとおった。
まさるくん	③ のふる日は、いつも い。
ゆきさん	④ ぼくは さまがどこにいるか える。
	⑤ わたしは げい でだい に出しました。

★小3年「みんなの作った漢字テスト」の例（NMさん）

いちろうくん	かすとくん	さくらさん	りなさん	けんとくん	出題者
⑤ かみのおもてとらをみくらべる。	④ かんじれんしゅうノートが、つかいおわった。	③ わたしはぶんしょうもんだいをよんでかきうつした。	② きょうはちやおのはっぱいびです。	① ものこをふかくけんきゆうする。	みんなの作った漢字テスト①
					名前

Dタイプ：例2

NMさんも、「みんなの作った漢字テスト」に取り組んでいます。

NMさんは、そのこどものもっている固有の語イを短文として表現させ、それをクラス全体に広げること、生きた漢字の使いかたを蓄積していくことにつながると考えたといいます。

これをはじめると、こどもたちは、新出漢字の短文づくりをいっそう楽しんでやるようになったそうです。

とくに漢字に苦手意識をもっていた子も、つぎはだれの文が選ばれるのか、どんな文が選ばれるのかを考え、意欲的に短文づくりに取り組むようになったと報告しています。

そして、テストのときには、用紙を配ると歓声があがるそうです。選ばれた子はもちろん、選ばれなかった子も、友だちの作った文を見るのを楽しみにしたといっています。

「つぎは、いつこのテストをやるの？」とせがまれるほど、テストを楽しみにするようになったそうです。

D タイプ°：例 3

★小4年「自分たちでつくるテスト問題」の例（SIさん）

漢字テスト①

4/26

四年一組（

）

⑤	④	③	②	①
すもうのは <u>つばし</u> をは <u>じ</u> めてみる。 (たくと)	なかで <u>もつ</u> ともたか <u>い</u> ば <u>し</u> だ <u>っ</u> た。(みほ)	あには、 <u>げい</u> に <u>ん</u> にな <u>っ</u> て <u>げい</u> めい <u>を</u> つけ <u>そ</u> う <u>だ</u> 。(ゆうと)	<u>でん</u> し <u>よ</u> ば <u>と</u> に <u>て</u> が <u>み</u> を <u>つ</u> け <u>て</u> <u>でん</u> ご <u>ん</u> を <u>つ</u> た <u>え</u> る。(こうしろう)	ともだ <u>ち</u> が、 <u>せん</u> せ <u>い</u> の <u>せ</u> つ <u>め</u> い <u>を</u> き <u>き</u> わ <u>す</u> れ <u>て</u> 、 <u>せん</u> せ <u>い</u> に <u>お</u> せ <u>つ</u> き <u>よ</u> う <u>さ</u> れ <u>た</u> 。(ゆみ)
すもうの初場所を初めて見る。	中で最も高い場所だった。	兄は、芸人になつて芸名を つけそうだ。	伝言を伝える。	友達が、先生の説明を聞きわす れて、先生にお説教された。
		ビルの最上階に行ったらビルの	伝書ばとに手紙をつけて	

SIさんの学級でも、子どもたちが1セット5過程の「文づくり」の時間に作った文をテスト問題に使いました。

ただし、指導者が選択するの
ではありません。

授業中に子どもといっしょに
テスト問題を選んだといいま
す。

問題文は、ひとつの新出漢字について、音読み・訓読みをまじえたり、複数の漢字語をとりあげたりして、奥ゆきのある理解をうながすようなくふうがみられます。

また、ときにはつぎのように
友だちの名をおりこんだ文もみ
られました。

〔新出漢字「児」〕「山田はると君は、児童会の仕事をがんばっている。」

〔新出漢字「加」〕「わたしは加山さんと同じクラブに加入しました。クラブでカレー作りのときにかくし味として、チョコを加えました。」

選んだテスト問題採択文は、模造紙に書いて教室に掲示しておきます。
ですから、改めて問題文を作らなくても済みます。

こどもにとっては、事前に問題がわかります。練習してから本番に臨むことができるので、自信を持ってテストにとりくむことができるようになったそうです。
つぎのようなこどもの感想がありました。

「自分たちで作ったテストは、自分が作った文が出題されると、とてもうれしくて、100点をとるやる気が出ました。」

以上のように「(D タイプ) 授業でこどもがつくった文を問題文にして出題する」形式といっても、学年や学級の実態に応じて、さまざまなくふうが考えられます。

E タイプ 課題の漢字について、ひとりひとり自作の文にして答える。

以下、E タイプの例。

E タイプ：例Ⅰ

OM さんは、小テストの出題のパターンを3段階にわけました。

① まずは、指導者が出題する。さきにふれた(C タイプ)です。

② 小テストの形式に慣れてきたら、こどもが考えた文を、教師がテスト問題に取り入れる。さきにふれた(D タイプ)の形式です。

③ そのあと、(D タイプ)をさらに進めて、こども各自が自分用のテスト問題をつくり、個々にそれに答えていく形式をとることにしました。(E タイプ)

OM さんによると、この形式をとったことで、受け身がちだったテストというものが、より能動的なものになり、学習の質が大きく変わったといいます。単にテストで高得点を取るためだけではなく、文をつくることにおもしろさを感じるようになったそうです。

★「小テスト用にこどもたちが考えた文」の例(OM さん)					Aさんのテスト	3年 課題「服」「福」「秒」「幸」「息」
⑤	④	③	②	①		
息をいっぱいすう。	幸せにくらす。	数を十秒まで数える。	幸福な毎日をおくる。	服を一着買ってもらう。		
⑤	④	③	②	①	Bさんのテスト	
息がみだれる。	幸せそうな人。	一分は60秒だ。	福おかに行く。	薬を服用する。		

ここからは、こども一人ひとりの個性、日ごろからの生活ぶり、学力、指向性がかいま見えます。友達の文を知る機会がふえることによって、学級のなかま意識も高まったようです。

E タイプ：例2

SK さんも、各自が自作の文をつくり、それをテストにしました。

まず、新出漢字と前学年漢字をおりまぜた 10 字分を提示します。それぞれの子が自分でその漢字を使った短文をつくり、事前学習用の用紙に書きこみます。

児童がつくったテストの例									
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
ぞじつをみかく。	せいのおびいまい。	とちだちのいけんにさんせいする。	じよせまぎょうをてつたう。	おあめめのだいしをかんさする。	せかいのちようこんにたつ。	たつぎょうはんがとどく。	とうろんをさする。	はんぞうのこうをばる。	しふじんをばけんする。
技術をみかく。	性能がいん機械。	友達の意見に賛成する。	除雪作業を手伝う。	大雨の対策を考える。	世界の頂点に立つ。	座急便が届く。	討論をする。	はん創こうをはる。	社員を派けんする。

かんじテスト④ 5月19日予定（）

事前学習用の用紙									
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
術（五年生）	能（五年生）	賛（五年生）	除	策	頂	届	討	創	派
技術をみかく。	性能がいん機械を使う。	友達の見解に賛成する。	除雪作業を手伝う。	大雨の対策を考える。	世界の頂点に立つ。	座急便が届く。	討論をする。	はん創こうをはる。	社員を派遣する。

各自が提示された漢字を使った短文をつくる。
かんじテスト④ 5月 19日予定（）

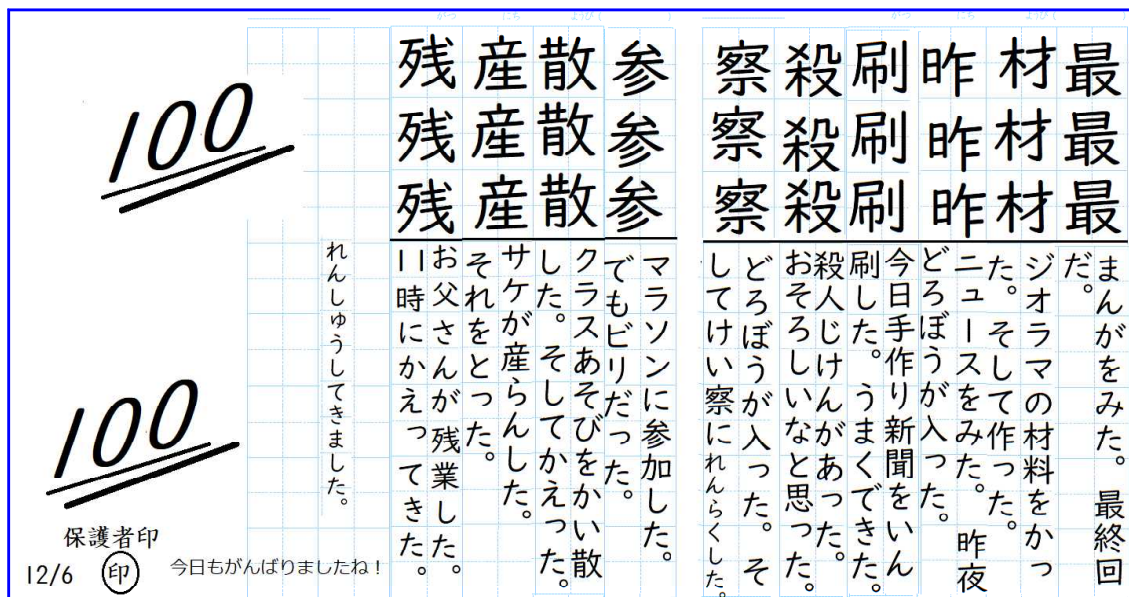
★小6年「ひとりひとり自作のカナ書きの短文を漢字になおして書くテスト」の例（SK さん）

テスト用紙には、その短文をひらがなで書きこんでおき、それを問題文にします。自分が作った文なので、見通しをもち安心してテストに取り組めたようです。

E タイプ：例 3

TT さんは、「漢字テスト用のノート」を使いました。

★小4年「漢字テスト用のノート」をもちいた例（TT さん）



事前に出題する漢字 10 字を予告します。テストの日まで、各自が練習してきます。

テスト用ノートは、市販の 1 cm 方眼 5 mm はばの十字リーダー入りのものを使いました。こどもたちは、上段と下段と、罫線を引いて分けておきます。

テストは、黒板に「サイ・ザイ・サク…」と漢字の読みを書いて出題します。

こどもたちは、ノートの上段にマスをいっぱいにとって、3 文字書きます。

下段には、ひとりひとり自作の短文を書きます。

評価は、上段の 3 文字については、字形の正しさを確認します。また、下段は、文を評価します。

TT さんは、短文については、2 文で書くことを求めました。2 文にすることにより、場面が明確になることと、コトバの意味をわかって使えているかが確認できるからです。

ノートには、テストをおこなった日付とともに、児童のコメントや、担任と保護者のサインやコメントがあります。はげましを受けて、意欲が継続できたようです。努力のあとがノートに残りました。

E タイプ：例 4

EY さんは、ひとつの漢字の音あるいは訓をしめして、訓読みあるいは音読みを使ったコトバで文をつくることをテストにしました。

（問1）「なさけ」という訓読みの漢字の「音読み」を使った言葉で、文を作ってください。

（問2）「わたしは、スキーをやったケイケンがある。」の「ケイ」の漢字を書いてください。

（問3）2の「ケイ」の「訓読み」を使った文を書いてください。

これは、毎回の小テストではなく、定着状況を調べる調査で出題しています。

①授業日当日、②翌日、③一週間後、④一か月後の4回、実施しています。

報告によると、④一か月後の調査では、問1「情」が8割、問2「経」と、問3「経る」が9割の児童が正答したといえます。

そして、正答のうち半数くらいが、授業のときと同じ文で、もう半数はちがう漢字語や使いかたをもとにした文だったそうです。

正答した理由を問うと、つぎのような答えが返ってきました。

- ・宿題をやったから。
- ・みんなといっしょに授業に参加したから。
- ・授業や宿題で文を作ったから。
- ・作った文を発表したから強く印象づけられた。

1セット5過程の授業で、こどもたちは意欲的に文づくりに取り組みます。それは、漢字の意味や使いかたを理解していることからこそできるのです。

こうした定着状況調査や小テストを通じて、自作の文を作る活動が、より確実な理解と定着につながることをさししめしています。

5

予告と練習期間

「国字研の実践例にみられる学習意欲を高める出題形式」として、「C, D, E」の3つのタイプの実践例を紹介しました。

これらに共通するのは、テストに**出題する漢字を事前に予告**していることです。どのように予告するか、代表的な例を紹介します。

Cタイプ OMさんの予告の例

さきに紹介したように OMさんは、これから学ぶ漢字，そしてテストに出題する漢字をつぎのように事前に伝えていきます。

(1) 学期はじめ

その学期で学ぶ新出漢字の予定表を作り，保護者とこどもに知らせる。

保護者には学級通信で伝え，協力をよびかける。

こどもには「みんなで100点とろう!」とよびかけ，学習の見通しをもたせる。

★小3年「3学期のテスト予定表」の例

3学期の 漢字小テスト						
			2月		1月	月
29	22	15	8	26	18	日
17回	16回	15回	14回	13回	12回	テスト予定の漢字
想、坂、他、荷、苦	神農、宿、世、界、岸、	県、受、和、島、待	筆、業、委、員、階、君、	級、安、平、洋、鉄、打、	運、予、練、速、曲	

学期はじめにこのようなテスト予定表をわたします。

(2) 小テストの1～2週間前

「1セット5過程方式」で学習した漢字5字分（週によって6字）を対象にしたテスト問題を配布する。

★1～2週間前に印刷・配布するテスト問題の例」（小3年）P.3 参照

テスト練習の期間をある程度余裕をもたせているのが，ポイントのようです。家庭学習を課し，この期間にまちがいがある子や，漢字が苦手な子に個別にサポートしています。

D タイプ°：例3 SIさんの予告の例

SIさんも毎学期のはじめに、その学期で学ぶ漢字の予定表を提示しています。

⑥	⑤	④	③	②	①	回
10/21~25	10/15~19	10/7~11	9/24~10/4	9/9~20	8/26~9/6	返す週
11/1	10/25	10/19	10/11	9/27	9/13	テスト
菜	副	続	念	願	求	習う漢字
積	無	失	兆	末	別	
養	各	敗	府	健	飛	
氏	陸	夫	塩	航	喜	
漁	衣	民	選	観	輪	
⑥	⑤	④	③	②	①	回
11/19~22	11/5~16	10/28~11/1	11/19~22	11/5~16	10/28~11/1	返す週
11/29	11/22	11/8	11/29	11/22	11/8	テスト
老	極	良	老	極	良	習う漢字
粉	付	特	粉	付	特	
固	改	周	固	改	周	
殺	席	停	殺	席	停	
☆	清	残	☆	清	残	

4年生で習う漢字は200字です。そのうち1学期に104字、2学期に96字習います。数が大変多いので、漢字を次のように分けます。

A漢字…生活でよく使う漢字。時間をよく取って学習します。漢字テストにも出ます。

B漢字…使い方が限られている漢字。スキルや漢字練習帳を使って練習します。読み方はしっかりと覚えよう。ワークテストには出ます。

C漢字…ふだんはあまり使わない漢字。スキルや漢字練習帳を使って練習します。ワークテストには出ます。

このように分けると、A漢字106字、B漢字55字、C漢字39字になります。

BC漢字は、みんなに「漢字先生」になってもらいます！（1年間の間に1人3こたん当）

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	《B・C漢字予定表》五十二字
浴	堂	灯	唱	勞	札	巢	束	察	康	兵	飯	標	
貯	鏡	功	亭	救	博	折	牧	孫	浅	隊	包	差	
囲	毒	勇	借	紀	笑	側	賞	郡	梅	型	帶	戦	
焼	票	旗	低	令	士	連	貨	課	英	徒	軍	給	

★小4年「2学期の漢字予定表」の例

この「漢字予定表」は、少ない指導時間でも、生活に使える確かな漢字の力を身につけさせるねらいから、その学期に学ぶ新出漢字を重要度に応じてランク分けし、指導に軽重をつけることをあらかじめ提示しています。

SIさんは、授業で「漢字練習帳（文づくりノート）」をつくらせました。

集めたコトバと、作った文をノートにまとめます。A漢字は1字に1ページ、B・C漢字は1字に半ページを使います。これらは、授業中に書かせています。授業中に終わらない子は、家でやってきて次の日に提出することにしていました。

A漢字は、ほぼ1週に5文字、「1セット5過程」の授業で学ぶことにしています。授業でコトバ集めや文づくりに取り組み、みんなが作った文のなかから、テストで出題する文が選ばれ、それが「漢字テスト」で出題されるわけです。

テストの日は、授業から最短で1週間後です。ですから、そのあいだに、じっくりと練習をすすめることができます。

B C漢字は、「漢字先生」と称する担当の子が前に出て、漢字1字について、音読み・訓読み、画数と書き順、意味などを確認します。そして各自がコトバ集めや文づくりを行います。市販のスキル（ワーク）などで練習し、市販のワークテストで習得状況をみます。

「漢字予定表」を作成し、配布すると、つぎのような効果があるようです。

- ① 年間を通して、計画的に漢字指導を行うことができる。
- ② こどもにとっては、これから学ぶ漢字学習の見通しをもつことができる。
- ③ 学期の途中や学期末では、これまでに学んだ漢字についてふりかえりができる。

E タイプ：例2 SKさんの予告の例

SKさんも学期ごとに新出漢字の予定表を提示しています。

新出漢字学習予定表（6年生1学期）

週	プリントあり	プリントなし		テスト
4月5日～8日	勤 危			なし
4月11日～15日	疑 腹	源 晩 盛		なし
4月19日～22日	認 存	片 痛 翌 姿 担	①	勤危疑腹源晩盛
4月25日～28日		視 呼 吸	②	片認存痛翌姿担
5月1日と6日		将 収		なし
5月9日～13日	創 討	派 届 頂 策 除	③	視論否将呼吸収
5月16日～20日	割 難	筋 沿 映 班 座	④	派創討届頂策除
~~~~~				

SK さんも、新出漢字の学習では、漢字の重要度に応じて指導に軽重をつけました。

「プリントあり」は、国字研プリントを使い「1セット5過程」の授業を行い、読み書き両方の力を定着させようとする漢字です。

「プリントなし」は、授業でノートなどを利用して書きの指導も行うとともに、読めて意味がわかることを、おもなねらいとする漢字です。

自分でその漢字を使った短文をつくり、それをテスト問題にしていることから、どちらの漢字も、定着に結びつきました。

SK さんの場合も、新出漢字を学んでから「漢字テスト」までのあいだに、最短で1週間の練習期間を設けています。その期間に個別指導も行いました。

事前の予告と、一定の練習期間を設けることは、「定着」におけた重要な要素といえます。

## 6

### 事後の再指導

「漢字テスト」では、誤答が出る場合があります。

基本的には、新出漢字の際の指導が大事です。また、事前の練習期間のあいだに個別指導を含めて確実に指導しておきたいところです。さらに、一定期間が過ぎると記憶があいまいになりがちです。

漢字テスト（ノートや作文でも）では、以下のように誤った字形を書いたり、字種を取り違えたり、適切な文や句でなかったりする例が見られることがあります。

#### 1. 誤りの例

誤りには一定の傾向があります。

(1) 字形の誤りの例。

① 点の有無の混同。

小4年「博」と小6年「専」など。

② 画の有無の混同。

小3年「幸」と小4年「達」など。

③ 画の長短の混同

小4年「未」と「末」など。

④ 画の方向の混同

小1年「千」と小6年「干」、小3年「岸」など。

⑤ 出るか出ないかの混同。

小2年「午」と「牛」。

小2年「矢」と小4年「失」。

小3年「勝」の「力」を「刀」になど。

誤字の例

色→戸

声→芭

落→落

⑥ 点画の一部の取り違い。

小2年「色・声」の最後の画。【右図】

小3年「当」と小4年「単」の1, 2画目など。

⑦ 構成の誤解。

小3年「落」を冠・脚ではなく偏・旁にする。【上図】

小4年「巢」を「畠+木」ととらえるなど。

(2) 字種の取り違いの例。

① 同音・同訓の字との混同。

小4年「結論」を「決論」に。

小5年「成績」を「成積」に。

小6年「経る」を「減る」に。

② 似た字との混同。

小6年「共存」を「共在」になど。

(3) 適切な文や句でない例。

① 語の意味が理解できていない。

小6年「温暖…気温が35度をこえて温暖になった。」

② 語の用法を誤る。「委員に務める。会社を勤める。」など。



## 2. 再指導の具体例

(1) 小2年配当「色・声」の最後の画をとりちがえる。

### ◎「色」

〈なりたちから〉「ク」(ひと)と、もう一人「巴」(ひざまずいた人)を合わせた字。

(図示する、または実演させる。)

＊ひざまずく＝ひざをゆかや地面につけてかがむ。

・最後の画の「まげ」は、「ひざまずいた姿」を表します。

・上の人(ク)が、下のひざまずいた人(巴)の顔色や様子を見えています。

そのことから、やがて顔色、色をあらわすようになりました。

### ◎「声」

〈なりたちから〉＊ただし、旧字(聲)から解説を始めると、「声」の最後の画の印象が薄れる。

そこで、《「声」は、石の板の楽器を、だらりとぶら下げた形》を図示。

「最後のはらいの画(ノ)は、石の板をだらりとぶら下げた様子」を強調。

石の板の楽器の意味から、耳にひびく「声」や「音」の意味になっていった。

(2) 小4年配当「巢」の書き順を「畺+木」と覚えてしまう。

「巢」のもともとの字は、木の上に鳥の巣があるようすをかたどってつくられました(象形文字)。上の「ツ」の部分は、「巢の上にちょっと見える、ひなどりたちのくちばし」がもとだったようです。ですから、字のつくりは「畺+木」とみてまちがいありません。

ただし、いまの「巢」の書き順は、「ツ+果」としてしています。「単」や「果」などは、「巢」と、なりたちが異なりますが、同じ書き順にしています。

書きやすさと、覚えやすさから、いまのようになってきたのです。

「巢」については、初めから「1, 2, 3・・・」と機械的に筆順をとなえさせるのではなく、初めに「ツ+果」と字形分解したうえで、「1, 2, 3・・・」とすれば、まちがわなくなるかもしれません。

ほかにも、書きやすさと、覚えやすさから、なりたちと異なる書き順となっている字があります。

(3) 小4年「結論」を「決論」と書いてしまう。

T:「ケツロン」は、どのように使いますか。

C:①会議でケツロンを出す。

②ケツロンから先に話しましょう。

③長い時間みんなで話し合って、よいケツロンが出た。

T:「結論」は、意見をまとめたもの、最終的な判断です。

ケツロンの場合の「結」は、どんな意味ですか。

C:結果、結局と同じく、「一つにまとめる」「しめくくる」の意味です。

T:「ケツロン」は、論を結ぶ、しめくくるの意味だから、「決論」ではなく、「結論」と覚えるとよいでしょう。「決論」のことばは、一部の文学者以外に使われていないようです。

(4) 覚えやすい言い回しを提示した例

中学生でも小学校で学んだ漢字のなかには、誤りやすいものがあります。

中学校教員のKTさんは、その字に合わせた覚えやすい言い回しを提示して再指導しました。

「成績…系をつむぐように成績はゆっくりあがっていくよ。」

「専門…専門家に口出すな、てん（点）で話にならない。（天罰×くだるぞ）」

「展示…展示にノーなし。」

（「展」の7画めと8画めのあいだに「ノ」を書く誤答例が多いことから。）

(5) 図で表現し、意味を理解させた例

(Eタイプ:例4)のEYさんは、小5年「経」の指導のとき、訓読みの「経る」がやや難しかったといえます。

授業日当日の家庭学習と翌日のテストの二度にわたって誤答だった子が31人のうち5人いたそうです。「経」そのものが書けない子もいたようですが、「経」は書けたけれど、「経る」の使いかたが理解できていない子もいたといえます。

そこでEYさんは、その子たちを対象に個別に再指導しました。

「新幹線は名古屋を経て大阪へ行く。」を図で表現したそうです。

こうして《そこを通して他の所へ行く・経由する》という「経る」の基本的な意味をとらえることができたようです。こどもからは、すぐに「なるほど、そういうことか!」という反応が帰ってきたといえます。

EYさんは、一週間後と一か月後に同じテストをしていますが、一週間後で全員正答、一か月後でも9割の子が正答しています。

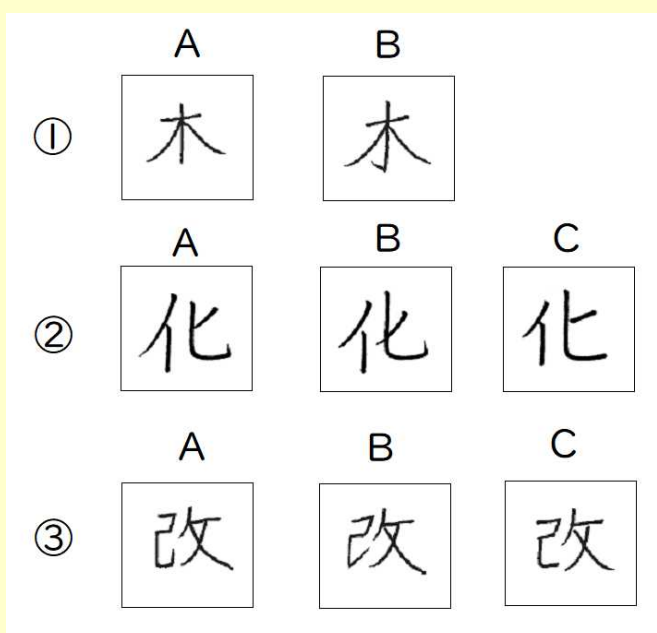
このことから、「改めて、意味を理解することが、漢字習得にどれほど重要なことなのかを思い知りました。」とEYさんは、述べています。

## 7

## 採点の基準と許容

早速ですが、クイズです。

子どもがテストで次のように書きました。○ですか、×ですか。



2017年7月31日におこなった「第33回漢字指導法研究会全国アカデミー」の開会あいさつで代表の紺屋富夫が、参会のみなさんに、問いかけました。

これに対して、アカデミーに初めて参加した現役教員の大半がつぎのように答えました。

「木」A、「化」C、「改」Cのように「トメ」で終わらせるのを「○」とし、他のどれをも「×」としていました。

あいさつは、つづきます。

答えは、2010年（平成22年）に総理大臣名で告示された『常用漢字表』に書かれています。それによれば、先ほどの例はすべてが○です。

これを聞いて、「ええっ」というどよめきの声に会場が包まれました。

字形のどちらか一方が正しいとみなされる傾向が根強く現場に残っていることをあらわしています。

「手本どおりの“とめ、はね、はらい”ができていないと、漢字テストは0点、漢字ドリルはすべてやり直しをさせられる。」といった学校現場の実情がしばしば話題になります。これでは、こどものやる気がそこなわれ、漢字を書くことがきらいになります。学ぶ意欲に結びつきません。

採点を、一定の字形の細部にわたって忠実に書いているかどうかだけにしぼっているからです。

では、なにを目的にどんな基準でもって採点したらいいのでしょうか。

(1)「漢字テスト」は、学習した漢字と漢字語を生きたコトバとして獲得できているか、その定着状況を確認するために行います。

(2)採点は、字形を適切に書くことができているかをみるとともに、意味が正しく理解できているかどうかもみます。解答で書かれた文や句が、意味・字形ともに正しく使えていることが求められます。

(3)学習指導要領は、『学年別漢字配当表』に示された漢字の**字体**を元に指導するとしています。基本的に採点（評価）もこれがもとになります。

『小学校学習指導要領』第2章 各教科、第1節 国語、第3 指導計画の作成と内容の取扱い、2(1)エ(エ)漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

(4)「**字体**」とは《**文字を文字として成り立たせている骨組み**》です。

例えば、「土」と「士」は、字体が異なるのでべつの文字ということになります。「土」とすべきところを「士」と書いたら誤りです。

「学」と「學」は、字種は同じですが、字体が異なります。「学」が標準の字体でそれをもとに指導していますから、「學」と書けば誤りです。

「木」の2画めたて画の終筆は、はねて書くことも、とめて書くこともあります。字形の細部は異なりますが、字体は同じです。どちらも正答といえます。

(5)ひとつの字形のみを正答とするのではなく、字体（骨組み）が過不足なく読み取れ、その文字であると判別できれば、誤りとはしない姿勢が求められます。

漢字テストは、こどもにとって、それをきっかけにして学ぼうとし、そして結果として力をつけるというたいせつな意義があります。

「採点」の段階でも、こどもの学習意欲を高め、学習した漢字を確実に「定着」できるようにするための、教育的な配慮が求められます。

---

参考

「はね・とめ・はらい」, 「付ける・離す」, 「長短」などについて、どこまでを認めるか、そのよりどころとなるのが、文化審議会国語分科会の報告『常用漢字表の字体・字形に関する指針』（2016年2月）です。

ぜひ参照し、活用することをおすすめします。

★『常用漢字表の字体・字形に関する指針』（報告）（2016年2月）

文化庁ウェブサイト [「国語施策」表記のよりどころ等](#)

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/index.html)

★『常用漢字表』（2010年内閣告示）

（付）字体についての解説

第1 明朝体のデザインについて

第2 明朝体と筆写の楷書との関係について

第3 筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの

文化庁ウェブサイト [内閣告示・内閣訓令](#)

[https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/index.html](https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/index.html)